

2025年 戦争体験を語り継ぐ集い

<第33集>戦時体験記録集



令和7年7月17日発行 戦争体験を語り継ぐ集い会

<第33集>戦時体験記録集

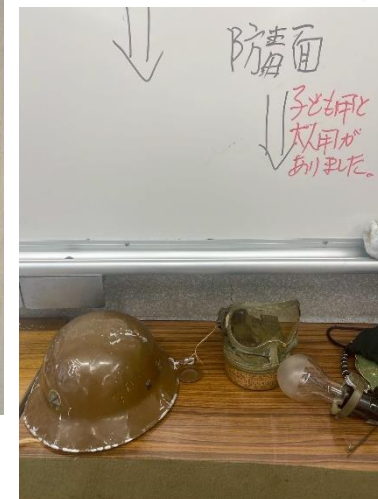
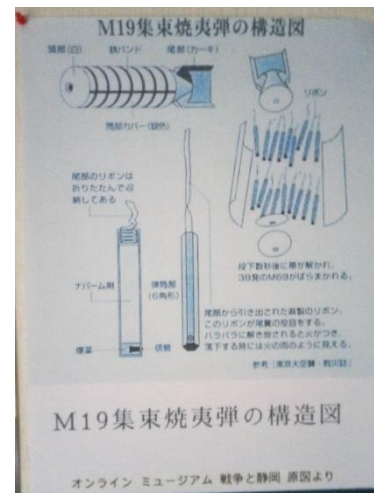
2025年語り部タイム記録

私の空襲体験とバンデリンドームナゴヤ

(ピースあいち語り手の会 会員 森下規矩夫) - - - P1

名古屋空襲～空からのまなざし～

(名古屋空襲研究会会員 東海高校教諭 西形久司) - - P11



◇「戦争体験を語り継ぐ集い」

皆様のご協力のおかげで、無事に最終担当回を終えることができました。語り部さんの素晴らしい発表と記録集作成へのご協力、関係者の皆さまに、心からお礼申し上げます。

◇戦時体験記録集について

2026年の発行はありませんので、2025年語り部さんの記録を、発行することにしました。また、復刻版のご注文もたくさんお申し込みいただいた状況です。ありがとうございました。

2025年 語り部タイム記録

はじめに

森下規矩夫さま、西形久司さまの発表では、多くのスライドを使用して、分かりやすくお話いただきました。記録にはほんの一部の画像しか組み込めないため、文章と画像の整合性が取れていない部分があります。ご容赦ください。

私の空襲体験とバンデリンドームナゴヤ

ピースあいち語り手の会 会員

森下規矩夫 / 1937年 名古屋市茶屋ヶ坂近くで出生
5月17日資料(P1~2) 語り部タイム記録(P2~10)

1. **バンデリンドームナゴヤ** そこには、軍用機用の発動機を製作する日本最大の工場がありました。会社名は三菱重工業名古屋発動機製作所です。
2. **明治政府以降** 資源の乏しい日本はそれを獲得するために隣国への軍事介入を続け、領土を拡大してきました。その結果、国際的孤立や経済封鎖を受け、それを打開するために太平洋戦争に突入しました。戦いの初期は優勢で、広大な地域を占領していました。
3. **戦争が始まって変わる国民生活** 男子は召集され戦場へ。召集されない男子と未婚の若い女性は軍事工場へ動員されました。
4. **空襲の始まり** アメリカ軍の反撃によりサイパン島が占領され、航空機産業の中心地であった名古屋への空襲が始まりました。
5. **本格的な空襲の始まり** 日本への本格的な空襲は1944年12月13日、三菱発動機工場から始まりました。初めての空襲体験で、防空壕へ避難しました。我が家が焼失し、家族

は運良く皆無事でした。翌日、中村区の伯父の家に避難しました。

6. **避難先での爆撃** 避難先で1945年3月19日に夜間爆撃を受け、焼夷弾から逃れました。周囲は焼け野原となりましたが、伯父の家は焼失を免れました。食料事情が悪化し、学校が閉鎖されたため、6月頃に三重県鈴鹿市へ縁故疎開しました。
7. **敗戦後** 疎開してから約2ヶ月後の8月15日に敗戦。占領政策により社会が激変し、生活に明るさと安心感が戻りました。三菱発動機工場は閉鎖され、跡地にドームが建設されました。教訓をもとに、平和で民主的な国作りが始まりました。
8. **戦後の日本と平和主義** 第二次世界大戦で日本は甚大な損害を受け、約310万人が命を失いました。また、アジア全域で約2000万人が犠牲となり、多くの地域を荒廃させました。この惨劇の反省から、戦後の日本は平和主義を貫いてきました。しかし近年の安保法案の成立や軍事費増額などにより、その平和主義が脅かされています。現在、日本は民主主義国家であり、国民の声が重要です。戦争の本質を見据え、平和を守る努力を続けることが求められています。

私は小学校1年生のときに名古屋で爆撃に遭って、しばらくして三重県に疎開をします。そこで敗戦を迎えました。

私は中日のファンで、時々ドームへ行きますが、どうしても80年ほど昔の戦争のつらかった記憶が必ず蘇ってきます。右の写真の赤い線のところに、軍用機のエンジンを作る大きな工場、「三菱重工



業 名古屋発動機製作所」がありました。工場の上空写真は 1943 年旧日本軍が撮影したものです。日本では最大の工場で、世界でも有数の部類に入っています。父はここに勤務していました。

ここで少し日本の隣国への軍事介入について、お話します。日本は資源がありませんので、明治政府以降、石油、鉄鉱石、ゴム、アルミ、などを求め、軍事力で領土を拡大し、獲得していきました。日露戦争に始まり、日清戦争、満州事変、日中戦争と、領土を拡大していきます。その結果、国際的に乖離、孤立し、諸外国との貿易ができなくなっていました。アメリカが日本への石油輸出を禁止したことで、日本は大打撃を受けます。これを口実に資源を獲得する新たな領土を求めて、真珠湾を攻撃して、太平洋戦争に突入しました。

戦いの当初は、日本軍が優勢でした。1941 年頃が最大の占領区域、広大な土地でした。今のミャンマー（当時ビルマ）、マレーシア、スマトラ、ニューギニア、ソロモン諸島、キスカ、アッツ島、中国大陆です。広大な地域を占領しましたが、それ以降は敗退し、戦線は縮小していきます。

戦争が始まったらどうなるかです。まず、男たちは戦地へ招集されました。私の母の弟は、海軍、母の妹の夫は、陸軍に招集され、帰ってきませんでした。いところが中国戦線で重傷を負って送還されてきましたが、しばらくたって亡くなりました。戦地に行かない男女はどうしたか、繊維工業、食品工場等を軍事用に変えさせられて、そこでの軍需製品の生産に駆り出されます。女子挺身隊「飛行機の生産に励みなさい」徴を飛ばしています。どのようなことを話しているか、ちょっと聞いてください。

どんな辛苦に耐えても、航空機の増産に邁進することは、天地神明にお誓いたし、皇国臣民の本分を全ういたしましょう。

純真なよい子どもは、励む。先生も劣らず、一生懸命だ。それゆえ、規律正しい国民学校の工作教室は、めきめき成績を上げていく。もはや、体を鍛え、文字に親しむだけでは満足しない。その清らかな心根に、祈りと願いはみなぎるのである。

豆戦士、そんな言葉はもう古い。子どもたちは男の子も女の子も立派に、既に増産の第一線に挺身している。

戦争が始まると貿易ができなくなり、日本には資源が入らず、石油、鉄鉱石、貿易での輸入ができません。戦争中は輸送船で運ぶのですが、潜水艦、飛行機の攻撃を受け、ほとんど沈没、輸入はストップします。アメリカ軍の潜水艦に救助されたのは、非常に運のいい方で、ほとんどの方は、亡くなっています。

こういう状況で、日本や名古屋の空襲について、具体的に話します。

アメリカ軍が戦後、調査して、作成したマップによると、主な軍需工場は大体燃えてしまっていました。三菱のエンジンを作っている工場、三菱の航空機の機体を作っている工場、エンジン機体を制作している愛知航空機の熱田工場、永徳工場。さらに陸軍の造幣所、兵器や断薬を作る工場が、高蔵、熱田、千種、熱田にありました。

1944年12月13日 空襲を受ける
三菱発動機工場

15



では、名古屋で体験した空襲の中でも特に記憶に残っているのは、1944 年 12 月 13 日の三菱発動機工場への爆撃と、翌年 1945 年 3 月 19 日の夜間空襲です。いずれもサイパン島から出撃した B29 によるもので、12 月 13 日の爆撃は、日本本土への本格的な空襲の始まりとされています。

B29 は、第二次大戦の最強の兵器です。日本のほとんどの都市を焼け野原にし、広島、長崎に原子爆弾を落としたのも、この B29 です。素晴らしい性能を持っていました。目標が近づくとボンバーが飛行機を誘導して、照準が合うと、爆弾を落とします。私たち、どうしていたかということですが。発動機工場の爆撃が始まり、私の家はちょうど爆弾が炸裂したところの近くでした。高射砲の陣地、飛行機を撃つ大砲の陣地もありました。私の家の近くの神社の森、ここの防空壕の中に、避難をしていました。父はこの工場で働いていましたが、無事だったのです。悲惨な現場を体験していますけど、子どもには一切、語ってくれませんでした。兄も学徒動員で、ここで働いていました。近くに爆弾が落ちて、生き埋めになる寸前に救助されています。私たち家族は、神社の森に避難をしていました。

いつものように、警報の解除を待ったんですが、それが間違いであったと分かります。サイパン島を出発した軍機が迫ってきて、爆撃が始まるんです。第 1 波、第 2 波、次々と襲ってきました。防空壕の中にい

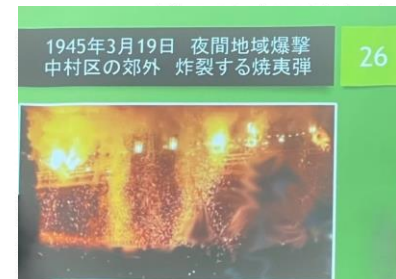
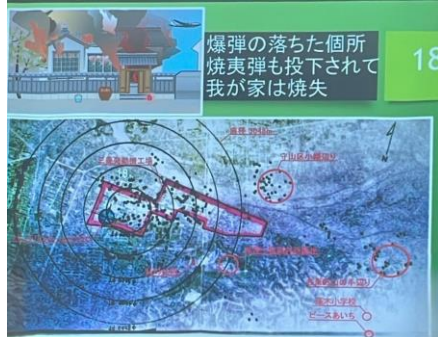
て、何が起きているか分からなかったです。爆弾の炸裂する音、それが爆弾の炸裂音だということすら、分からず、不安、恐怖でした。じっと防空壕の中で、耐えていました。この時に願っていたのは「早く終わってほしい」ということだけ。こんな体験は、二度としたくありません。

同時に焼夷弾も落とされて、私の家は燃えてしまいました。自分の家が燃えているのを見るのは、非常に寂しい、悲しんです。消火にあたったのは母と近所の主婦 2 人、たった 3 人だけで、みじめでした。防火用水に行き、バケツに汲んで掛けていました。でも、もう意味がないんです。「応援！ 応援！」と言いつても、誰も来なかったです。終わった頃に、近所の方々や高射陣地から兵士たちが来て、延焼を食い止めました。

これは爆弾の落ちたところをプロットしたところで、私の家近くに 2 発、落ちてます。実際の目標より東のほうへ分布しています。これは偏西風の影響で、アメリカ軍も、この初めての爆撃ではそこまでは分からなかったようです。

私、家を失い、住むところと家財、その他、何もかも一切、失って、その後の生活は厳しいものとなっていきます。人生ってのは普通、続いてくんですが、私はここで一旦、断ち切られました。何もかも無くして、残ったのは、記憶だけ、記憶だけです。全て失いました。

翌日、中村区のおじの家に避難をしました。近所の方との別れもなく、身も心も付いていかなかったです。あまりにも急激な変化でしたから。この頃は灯火管制が厳しくなっていました。避難先では、夜は暗く、寒い冬でしたけど、暖房は火鉢、一つでした。真夜中に時々、発令される警戒警報、空襲警報のたびに起きて、寒い防空壕に避難します。夜も満足に眠れない生活が続き、食糧事情も悪くなり、慢性的な空腹を抱えていました。



3月19日の夜間爆撃の体験を話します。アメリカ軍の B29 が 319 機で襲ってきました。アメリカは非常に高度に発達した国で、工業国、日本は農業国でした。想像を絶する規模で襲ってきたわけです。焼夷弾を、雨のように、ばらまきました。私たちは防空

壕にいたんですが、ふと防空壕からちょっと顔を出したら、1 機の B29 が接近してきました。夜間爆撃の場合は、高度、約 2000 メートルぐらいと聞いてました。B29 がずっと近寄ってきて、頭上を飛行してきます。これがまたきれいで、ジュラルミンが輝いてました。思わず兄と「きれいだな」と言ったら、後ろにいた姉に怒られました。「敵の飛行機だ！」と。そう言われたけど、本当にきれいでした。

そして、焼夷弾を落としたようで、周りに火の手が上がります。母は危険を感知し、私たちを防空壕から出して、郊外へ避難を始めます。私たち兄弟 6 人、母と 7 人です。父は単身赴任で不在です。7 人、一緒に走る、一番下と弟は抱っこされていたようです。私は走ったけど、どうしても遅れがちになり、とうとうはぐれてしまいました。気が付いたら、田んぼの中にいました。まず、東、左前方にボンと火柱が上がった。「ああっ！！」と驚いてたら、周りでその火柱が次々と上がる。これは焼夷弾の雨の中にいるんだと、分かりました。

B29、1 機で落としていく、焼夷弾、約 3500 発です。次々、落ちてきますが、私は田んぼの中、走り回ったりはせず、ぼんやり立っていました。離れて落ちてくれたのは、運がよかったと思ってます。運がよかった、それ以外、ありません。この焼夷弾の炎が、田んぼに積んである稲わらに燃え移りました。周りが明るくなった、そのとき、母が私を見つけて、名前を呼んでくれました。1 人で非常に心細かったが、母の声を聞いて「ああ、助かった」と思いました。

焼夷弾が落ちてくるのを遠くから見ると、こういうふうな感じで、近くでは分かりません。親爆弾に入っていて、途中でボンと爆発すると、分散して落ちるんです。そのときに方向を決めるために付いているリボンに着火して、落ちてくるんです。遠くから見るとクリスマスツリーみたいな感じで、これがゆっくりと



ザーッと落ちてきます。非常に気味の悪い光景です。年末のクリスマスツリーを見ると、どうしてもこれを思い出して。だから、あんまり見たくないです。それから打ち上げ花火、スターマイン、三河の手筒花火、火柱を見ると、田んぼの中でさく裂した焼夷弾の火柱を、思い出します。

その後、帰還していく B29 を見てました。これはとても大きな機体で、日本では到底、製造することはできません。4 発のエンジンが付い

た飛行機を、目の当たりにして、この圧倒的な力の差、小学校 1 年生の子どもでも分かります。日本は戦争に負けるんじゃないかなと、心の中にずっと湧いてきたんですが、それは口には出せません。やっぱりこの時も「きれいだな」と、そういう感情が湧いてきました。敵の飛行機だけど、敵対心は湧いてこない、なぜかそうでした。振り返ってみると、なぜ戦争やっているか、ということも分からないし、目的も分からない。小学校 1 年生だから、美しいものを見て、自然にそういう言葉が出てきたんじゃないかなと思ってます。

夜が明ける頃、家に戻ってみると、おかしいことに、私の家と隣の家、2 軒だけが、焼け野原に残っているんです。周りは全部燃えているんですけどね。不思議でしたが、理由はよく分かりません。

これはアメリカ軍が敗戦後すぐに写した、名古屋市の焼け跡の映像を見ると、焼け跡ってというか、無人地帯になります。家が無いだけではなくて、人が消えてしまうんですね。このショックです。昨日まで一緒に遊んでいた友達とか、お見知りの方々が、全部いなくなっちゃう。虚無感、寂しさってというか、生活が無気力になるって、そういう心境になりました。やがて、学校は閉鎖され、戦争が終わるまで来なくていいと。食糧事情はさらに悪くなり、もうこれは、耐えられなかったです。それで三重県鈴鹿市に、縁故疎開をしました。関西線なんですけど、鈴鹿市の石薬師、ここで古い農家 1 軒、借りたんでしょうね。後で分かったんですが、知らずに軍需施設の近くへ疎開してました。戦争が長引いたらどうなっていたか、想像、付きません。

田舎は学校が休みじゃなくて、授業をやっとりました。だけど、上級生は、勤労奉仕、4、5、6 年生は、農家への農作業の手伝い、下級生、1、2、3 年生は、オオバコとドクダミの採集に駆り出されました。これは薬草、薬です。宿題は、勉強じゃなくて、ドングリ、食糧用として約 3 リッター、1、5 合です。それから衣料用に、チワラを乾燥したものを約 1 貫目、約 4 kg ぐらいです。

疎開先では B29 は飛んできませんでしたが、敗戦、近くなると、日本の上空を艦載機、航空母艦から発進してくる、戦闘機の機銃掃射がよくありました。「グラマン」って私たち聞いてましたけど、ミツバチを想像するような形です。近くの陸軍病院の給水塔を、機銃掃射したんですが、防空壕の中からチラッと見たものは、凄まじい音、エンジン音と銃の発射音です。だからこの頃よく言われたのは「エンジンの音が聞こえたら、爆音が聞こえたら、どこかに隠れろ！！」と。それから「白いものは着るな！！」と。白いものは、ターゲットになるから、着たらいけない、これをよく言われました。

疎開してから約 2 カ月後、日本は 8 月 15 日、無条件降伏をしました。戦争が終わったときに何を感じたか。「戦争中の無言の圧力」思っていることも、子どもでも自由に話せない、そういう緊張感から解放されました。海外旅行から日本へ帰った時の、緊張から解かれた「ほわん」とする、一緒じゃ無いけれど、あの心境によく似てます。翌日からは、夏休みになりました。食糧用、宿題のドングリとチワラも、ご破算になり、もともと厳しいノルマでしたから、無くなってホッとしました。その後は、小川で泳いだり、夏休みの開放感を満喫しました。田舎はそうやって、のんびりしていました。食糧事情も都会ほど深刻じゃなかったです。

飛行機におびえなくてもいい、夜は電気が付けれる生活に、安心感と明るさが戻りました。数日、過ぎると、復員していく兵士たちが見られるんです。休憩して私たち子どもを見ると、軍用の貴重な乾パンを気前よく、くれました。このときの元兵士の表情が忘れられない。嫌な軍務を解かれて、生きて故郷へ帰れる、その喜びに満ち溢れてました。

名古屋市の空襲の対象となったのは軍需工場でした。その時は東のほうから侵入してくるだろうと予測して、防御体制をとったんです。探灯、サーチライトもあります。また、鳴海にも、平手にも、こういう陣地がありました。実際、爆撃コースは、東方向ではなく西の方から来ました。なぜ、東からの想定だったか、河川が多く目標を誤る可能性があったから、必ず東から来るだろうと。実際、裏をかいて来ました。

それから戦後、アメリカ軍が写した上空写真ですが、有松駅の東方向、約 500 メートルぐらいの所に、捕虜の収容所がありました。280 人ぐらいいて、神宮前の日本車両に行き、車両製造に従事していたようです。これはちょうど昼食のときの光景でしょうね。皆さん、痩せて素足の方もいます。食を求める必死の表情を見てください。当時の日本国民も飢えていましたが、捕虜たちはそれ以上に飢えていました。有松駅の近くにこういう捕虜収容所があったということ覚えておいていただきたいと思います。

さて、1946 年 5 月に米軍が撮影した上空写真を見ると、鍋屋の浄水場、三菱の工場、発動機工場、完璧に破壊されて何も残ってないんです。周りも焼け野原。現在のドーム、イオンがあり、三菱電機の工場、今の



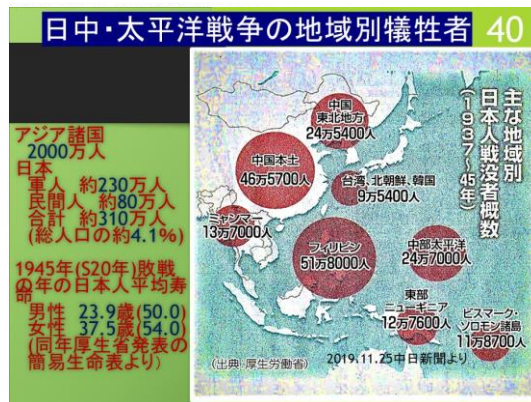
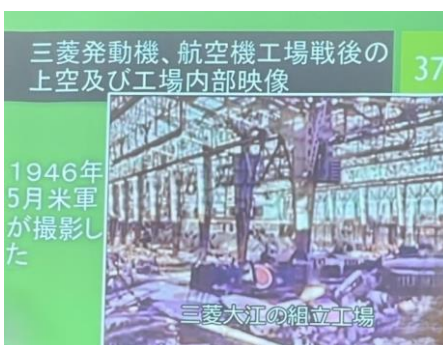
三菱電機、お隣の駅も写っています。工場はほとんど破壊されて、駅の周辺もほとんど焼け野原です。日本のほとんどの都市がこのような状態になっております。地上から映したものがあんですが、エンジンのシリンダー、たくさん作ったものが積んである。工場内は見事に破壊されています。7回、爆撃を受けてます。破壊された発動機、飛行機の機体を造ってるほう、三菱の港区の大江工場、やっぱり同じように爆撃を受けて、ほとんど破壊されております。三菱発動機のほうの工場は、戦後は規模を縮小して生産を開始しますが、1985年に閉鎖して、1996年に三菱重工がドームを作ったんです。現在のドームは戦争の傷跡はありませんけど、空襲の辛く悲しい記憶が刻まれていることを知っておいていただきたいです。

敗戦から3カ月後、日本はプロ野球が復活します。神宮球場などで行われています。ここで後に300勝を挙げた別所という投手が、球場にいたアメリカ兵に、「ワットイズデモクラシー？」と聞いたら、兵士はグラウンドを指して「デモクラシーイズベースボール」と答えた、という逸話が残ってます。深みのある言葉です。平和、自由の言葉の文字を入れてもいいと思います。ドームへ来ると、私は平和の素晴らしさをかみしめています。平和だからこそ、野球ができる、見ることもできます。好きな歌を歌い、好きな音楽も聴けますが、戦争はそれらの文化すら、全て奪い去りました。

最後ですが、これは太平洋戦争で他国に与えた被害と犠牲者数です。

アジア諸国では、約2000万人。それから日本は、軍人、民間人、合わせて310万人で、全人口の4.1パーセントにあたります。

地図は、戦没者の数を示していますが、やっぱり中国大陸が一番多く、



約70万人、ミャンマー14万人ぐらい、フィリピン52万人です。海外で亡くなった方がたくさんいますが、未だに遺骨は半分ほどしか回収されていません。

写真(No.40)の左側の数字、下の数字、見てください。23.9。これは敗戦の年の男性の平均寿命です。下が女性の平均寿命。括弧の中の数字は、敗戦の翌々年の平均寿命で、50歳と54歳です。食べ物がないから、幼児がたくさん亡くなる、戦地では、若者がたくさん死ぬ、国内では、空襲でたくさん死ぬ、こんな数字になったわけです。さらに多くのものが破壊されて、国土は荒廃して、何一つ良いことはありませんでした。その反省に至って、敗戦後「日本は戦争をしない」平和主義を厳守してきました。これは世界に誇れる立派な理念で、国際的な誓いです。「戦争は、愚かだった。私たちだけでいい。君たちはこの誓いを胸に生きろ!」と、先輩が残してくれた、大切なお守りです。

戦後80年も軍事力を使わずに世界に影響を与え続けてきた国は、日本以外ありません。それなのに今、この先人が決心した平和主義が、2015年の9月に成立した安保法案で、堤防が崩れ始めております。最近では軍事費の増加、それから敵基地攻撃論、武器の輸出などを、訴える方が増えてきました。再び戦線の道を進んでいく恐れがあるんじゃないかと、私は思っています。

満州事変から敗戦までは、日本は軍人によって政治が動かされていて、国民は政治に対する批判がほとんどできなかった。現在の日本は民主主義国家で、主権は国民にあります。主権在民です。国民の多くが戦争に反対すれば、国は戦争することはできません。私は、戦争は人間のすることではないと思っています。どうか皆さん、日本の前途というものを考えて、戦争の真実を見据えて、平和の大切さを学んでいただいて、平和を守るための努力をしていただきたいと、お願い申し上げまして、私の話は終わりといたします。

名古屋空襲～空からのまなざし

名古屋空襲研究会会員 東海高校教諭 西形久司

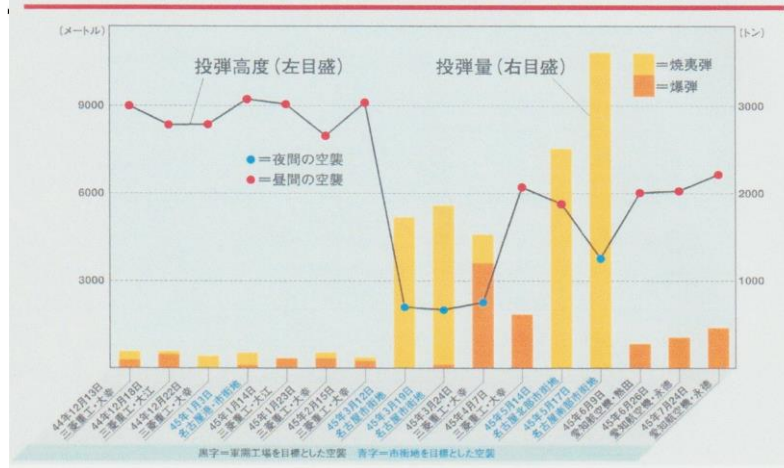
5月17日資料（P11～14） 語り部タイム記録（P15～30）

名古屋空襲～空からのまなざし

2025年5月17日 西形久司

① 投弾高度と爆弾の積載量の関係

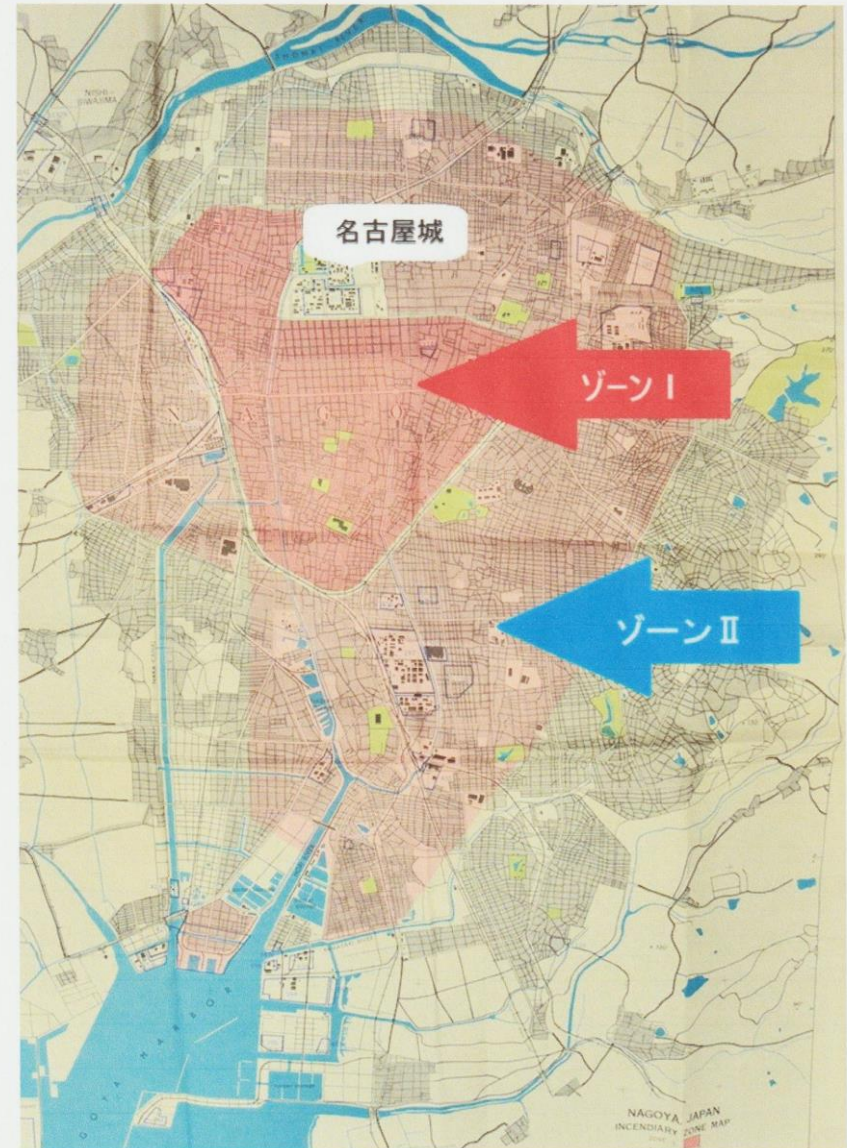
【パネルⅠ】名古屋が受けた空襲—投弾高度と投弾量（出撃機数40機以上）



このグラフは、米軍 B29 部隊が名古屋の市街地や軍需工場を爆撃したときの投弾高度と爆弾の積載量の関係を示したものです。ピースあいちの常設展示のパネルのために作成しました。名古屋の空襲を左から時系列で並べてあります。折れ線が投弾高度で、棒グラフが爆弾積載量（黄色＝焼夷弾、オレンジ＝爆弾）です。初めのうち昼間の時間帯に高い高度から爆弾を用いてピンポイントで航空機工場を狙いましたが、冬の日本列島上空の偏西風に妨げられ、米軍としては思ったほどの成果が上がりませんでした。日本の夜間防空戦闘力が弱体であることを見抜いた米軍は、1945年3月から夜間に低い高度から市街地を焼夷弾で爆撃しました。ひと晩で10万人が犠牲になったという3月10日のいわゆる東京大空襲を手始めとして、12日名古屋、14日大阪、17日神戸、19日もう一度名古屋と、日本の4大都市を次々に焼け野原にしました。

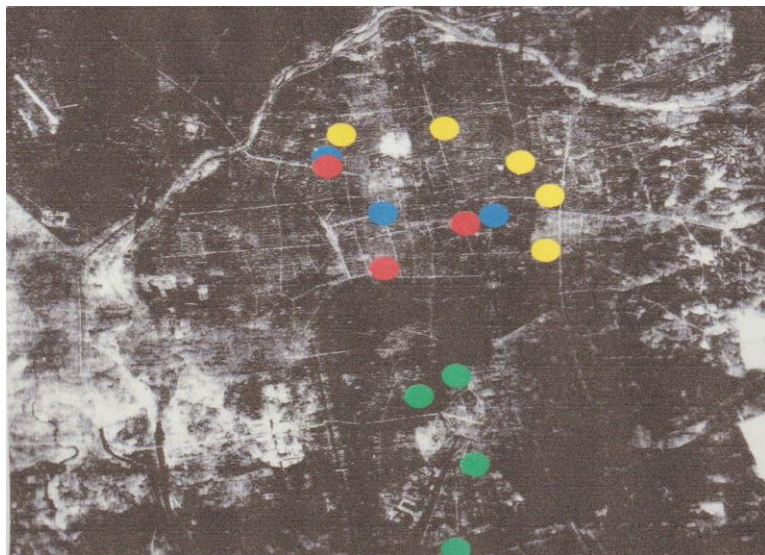
このグラフから何が読み取れるでしょうか——初めの頃は投弾高度を高くしたため、日本側の反撃をかわすことができましたが、燃料消費量が大きくなってしまい、燃料の分だけ爆弾の積載量が少なくなっています。夜間、低い高度からの爆撃へと戦術転換すると、その分燃料が少なくて済むので、爆弾（焼夷弾）積載量を増やすことができるようになった、という投弾高度と爆弾積載量との関係が明確に表れています。

② 名古屋のゾーン・マップ



米軍は人口密度を基準に、攻撃目標と下日本の大都市市街地をゾーン分けしていました。人口密度のより高いゾーンⅠが最優先のターゲットで、ゾーンⅡはそれに準じるターゲットです。名古屋の場合、1945年3月の2度の空襲でゾーンⅠを、5月の2度の空襲でゾーンⅡを、それぞれ焼き払いました。

③ 名古屋空襲の爆撃中心点



米軍 B29 部隊は、作戦任務に際して各航空団に目標＝爆撃中心点（照準点）を指示しました。図中の赤色が 1945 年 3 月 12 日、青色が 3 月 19 日、黄色が 5 月 14 日、緑色が 5 月 17 日の爆撃中心点です。今回不発弾が発見された丸の内のあたりは 3 月 19 日の爆撃中心点に近く、実際に発見された不発弾＝M76 は、名古屋空襲では 3 月 19 日にのみ使われていますから、丸の内の不発弾が投下されたのは、1945 年 3 月 19 日の空襲であり、80 年の時を隔てて私たちに戦争の記憶を呼び覚ましてくれたことになります。

④ 米軍が撮影した名古屋北部市街地の画像

米軍が名古屋の上空から撮影した写真で、何枚かの写真を合成して作成されています。庄内川の形状から大体の場所が読み取れるかと思います。



⑤ 米軍が撮影した名古屋市街地の画像



この写真は 5 月の 2 度の爆撃のあとで名古屋に与えた損害を評価するために作成されたものです。

【語り部タイム記録】

名古屋空襲の研究というお話ですが、現在の話から入っていきたくと思います。

ガザとナゴヤ

ガザ	面積 365km ²	人口 2,375,259人 (2022年推定)
	人口密度 6,507人/km ²	
名古屋市	面積 326.5km ²	人口 2,327,950人 (2023年11月推定人口)
	人口密度 7,131人/km ²	

ガザと名古屋。ガザの面積、人口、人口密度、見てください。名古屋を比較、対比してみると、似ていますね。私たちは日頃、ニュースの映像などでガザで空爆やミサイルが撃ち込まれ、たくさんのお子どもたちが亡

くなっている、遠い土地で起きてることと見がちですが、起きてるのは名古屋と変わりがない場所なんです。やはりそういう想像力といえますか、そこで起きてることは、実は名古屋と同じ面積、名古屋と同じだけの人が住んでる場所で起きていることなんだ、そういう目で世界でいろいろ起きてることを見つめることは、やっぱり必要なことなのかなと思います。

よく子どもがたくさんなくなっているという「ああいう映像ばかりマスメディア、マスコミは追っかけてるのかな？」と思われるかもしれませんが、パレスチナの人口ピラミッドは下に広がっています。つまり、人口の大半は子どもたちで、ここに爆弾、ミサイル撃ち込めば、一体、誰が受けるのか。あきらかです。これが今、世界で起きてるんだということです。

現代も捉えながら、見てきたいと思います。実は私も「ピースあいち」に関わっています。弁護士の野間美喜子さんが中心になって、ピースあいちの設立段階で「手伝ってもらえないか」ということで、それからずっと関わっています。ピースあいちは民間の戦争資料館ですが、しばらくたってから、愛知県と名古屋市が津橋に「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」というのを作ることにになり、そこにも設立準備段階から関わ



っています。だからピースあいちと戦争資料館と両方です。ただ単に教壇に立ってるだけじゃなくて。職場では「おまえ一体、何やってんだ？」って、よく言われるんですが。ちゃんと外でやってることは、必ず教育現場に還元することができるものです。そういつも言い逃れをしています。

森下さんのお話は実はすごくよくできた、パーフェクトな授業でした。お話を聞きながら、私は一体、何を付け加えればいい？と内心迷いながら。でも、やっぱり準備してきたことは、ひと通りお話ししようかなと、お付き合いください。



名古屋空襲を理解するために ①

キーワード「B29」

アメリカ軍の超大型爆撃機 (幅43m×長さ30m)

アメリカが30億ドルもの巨額をつぎこんで開発

30億ドル=その頃の日本の輸入の3分の1

日本の戦闘機がたどり着けない1万メートル上空をスイスイと飛べた

広島・長崎に原爆を落としたのもB29

戦争最終盤の10か月 マリアナ基地 (サイパン島・グアム島) から出撃

日本のあちこちに爆弾や焼夷弾を落とす

さて、基礎的なレッスン「B29」です。幅が43メートル、長さが30メートル、アメリカが30億ドルの巨額の予算をつぎ込んで開発したものです。30億ドル、その頃の日本の国家

財政の3分の1にあたります。だから到底、日本ではこんな飛行機、爆撃機、作ることはできませんでした。B29の部隊が超高高度を飛んできると、日本の戦闘機が迎え撃ちますが、到達できません。1万メートル近くまで昇るには、エンジンにターボが付いてないと飛べないわけです。しかも空気が希薄であり、酸素ボンベが必要です。B29は11人乗りで、機体の中は密閉されています。11人が酸素ボンベ担ぐのではなく、機体の中は自動的に酸素が供給される、それは高級な、当時の最先端の技術をつぎ込んで作った乗り物です。

このB29が日本の軍需工場のみならず、都市を繰り返し、繰り返し爆撃するんです。軍需工場からなぜ市街地爆撃に切り替えていったのか。実はアメリカ国内で「あれだけ予算、食ってるのに、全然、成果、上がらんじゃないか」と。それで成果を見せるために、成果が上がらなかった軍需工場から市街地爆撃に切り替えていったことが、最近の研究、アメリカの学者の研究でも分かってきました。サイパン、グアム、テニアン、いわゆるマリアナ諸島からB29は飛び立って、二千数百キロメートル飛来したわけです。

もう一つ「爆弾」と「焼夷弾」という言葉です。「爆弾」は中に火薬が

詰まっています破壊力があります。従って、頑丈な建物、鉄骨だとかコンクリートで固められてるような頑丈な建物を破壊します。「焼夷弾」は油脂などが中に詰め込まれているので、燃焼力があります。だから木造の家屋を焼き払うのに使います。

名古屋空襲を理解するために ②

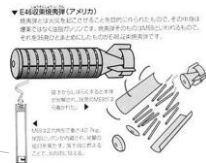
キーワード 「爆弾」 「焼夷弾」

爆弾は→破壊力→火薬を詰め込む

→工場など頑丈な建物を吹き飛ばす

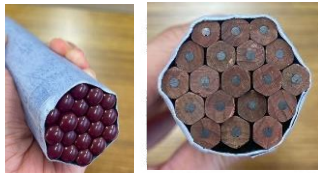
焼夷弾は→燃焼力→油脂などを詰め込む

→木造の家屋を焼き払う



ちょうど後ろに焼夷弾の筒が展示されています。これは「M69」です。焼夷弾は十何種類も作っていて、その都度、その都度、爆撃目標にぴたり合った焼夷弾を選定します。ただ単にめくらめっぽう、バラバラ、ばらまいているのではなく、これがいい、と選んでるわけです。

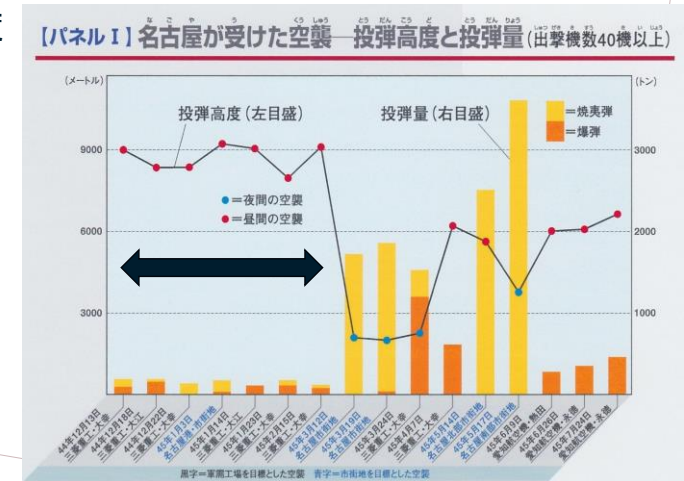
一番よく使われたのは、後ろに展示されている「M69」です。19本を束にして、さらにその後ろにも19本束にして、38本で一つの丸い円筒のケースに入れます。19本「なんて半端な数字なんだ」と思われたかもしれませんが。今日は実にありがたいことに、後ろの展示でM69焼夷弾は、六角柱と分かります。身近な六角柱は鉛筆ですね。面白いことに、この19本の鉛筆を丸い筒の中に入れると、ちょうど隙間なく収まります。後ろの展示グッドアイデアです。



回していただきますね。授業で、理科系の生徒は、19本が丸い筒に収まるのを、証明しようとするが、文科系の私には分からない「まあいいから、まあいいから」って言ってます。38発、前後に入り、外側にベルトが巻いてあります。セッティングした一定の高度まで来ると、ベルトに装填された火薬にスイッチが入って、破裂する、パチンと弾けます。中から38発がバラバラッと落ちてくる仕組みになっています。

さて、今日の私のお話のポイントの一つが、次のグラフです。ピースあいちの展示用パネルのために作ったもので、名古屋が対象なので、全国でピースあいちにしかありません。時間が左から右に流れていきます。左が古い空襲、右のほうがどんどん後の空襲ということになります。この折れ線はどれくらいの高さから、爆弾、焼夷弾を落としたのかを示しています。棒グラフは、どれくらいの爆弾、焼夷弾を積んだのか、です。投弾高度、高さ、それから投弾量、爆弾の量、この関係を示しています。

投弾高度と投弾量の関係



赤い丸は昼間、青い丸が夜です。最初のうちは高いところ、8000m前後をずっと飛んで、目標は軍需工場です。三菱の発動機や航空機、機体を生産しているような、三菱の工場などを爆撃するときには、高いところから爆弾を落とすわけです。そうすると、棒グラフがずっと短くなってますね。1万メートル上空を飛ぶのはものすごく燃料を食うんです。燃料を多く積むと爆弾が積めない。だから高いところを、飛ぶと、爆弾をあまり積めないことになります。

途中でグッとこの折れ線が降りてきます。名古屋では昭和20年3月12日、19日、この辺りの爆撃は、夜間の市街地に対する爆撃になります。低いところ、飛ぶと燃料の消費が少ない分、爆弾が積めるんです。そういう関係になっています。

高いところから狙ってる軍需工場のお話からします。昼間の時間帯に1万メートル近い超高高度からピンポイントで、高いところから航空機工場、三菱のエンジン工場などを狙うということは、精密爆撃です。と

ころが予想外の障害物、冬の日本列島上空にはジェットストリームという、時速何百キロという偏西風が吹いています。高いところから目標を狙って、爆弾を落としても、機体自体が流されてしまい、狙いどおりに爆弾を命中させることができません。B29は金食い虫「30億ドルも使って造ったのに、全然、成果が上がらないじゃないか、軍需工場を全然破壊できないじゃないか」との国内世論です。この国内世論に対抗する意味で考え出したのが、実は市街地爆撃でした。

名古屋市街地もこれで狙われることになり次は3月の空襲です。3月12日と19日、5月14日、5月17日があり、これらの空襲についてお話しします。

昼間の空襲から、今度は夜の空襲に、しかも名古屋の上空低いところからです。日本のおもな都市は大体、同じような時期に切り替わっていきます。1945年、名古屋は3月12日、19日です。テニアンやサイパンを中心とするマリアナ基地では、B29の配備機数が増えてきます。1万メートル上空から見ると、東洋一と言われる軍需工場もピンポイントになってしまいます。小さな目標ではなく、機数を増やすなら、もっと広大な目標を狙おうじゃないか、しかも市街地に行くならば、今度は夜だろうとなるわけです。

なぜ夜なのか。昼間、高いところを飛んでると、日本の飛行機が応戦するし、ジェット気流に流されて、なかなか目標に当てることができない。夜、高度を落とせばどうだろうか。実は夜、迎え撃つ日本の戦闘機は精度の高いレーダーを積んでいないので、飛び上がっても、正確に敵の飛行機を落せないわけです。ある意味、夜間の戦闘力が弱い。高射砲という高い角度を狙って撃つ大砲も、実は弾が届かない空白域あり、それを狙って飛んでくるわけです。日本の防衛体制の弱点を見抜いて、それで夜間の都市への焼夷爆撃に切り替えてったという話です。

3月中旬、アメリカ軍はブリッツ（電光）と呼んだ。3月10日、ひと晩で10万人が亡くなった有名な東京大空襲です。その2日後の12日に名古屋、14日に大阪、17日に神戸、19日にもう一度、名古屋でおしまいです。なぜ名古屋だけがごていねいに2度も狙われたか。これもアメリカ軍が残した資料で、この謎が解けてきます。アメリカ軍は爆撃の翌日に高いところを一機だけフラッと飛んできます。日本はわざわざ一機だけ落としに行かないので、悠然と上空を飛び回って、実は写真撮影するわけです。撮った写真を基地に持って帰り、各都市の市街地地図で、今回の爆撃焼けたところを塗りつぶしてくわけです。

3月10日の東京大空襲では、東京の下町、折からの強風にあおられて、火災が広まっていきました。翌日、写真撮影してみると、アメリカ

軍にしてみても「こんなに焼けると思わなかった」って話です。焼夷弾はバラバラばらまく、どれくらいの高さでばらまくかによって、落ちてくる密度を、機械的に調整することができます。じゃあ2日後の名古屋の場合はどうするか。3月10日は割と高い密度で落とされたけど、こんなに密度を上げなくも、日本の都市は十分、焼けると分かったので、2日後の名古屋の空襲では、密度を広げることになるわけです。ある意味非常にけちな発想ですが。ところが3月12日の名古屋、実はアメリカ軍が狙ったほど焼けなかったので、14日大阪と17日神戸は東京と同じ密度にしたわけです。そして名古屋は、もう一回、やり直しをされて、名古屋は2回、爆撃を受けたわけでした。

さて、4月、マリアナ基地のB29部隊は、もっぱら九州の飛行場を狙っていました。4月1日、沖縄本島にアメリカ軍が上陸するため、沖縄作戦を支援しないといけないわけです。特にアメリカ軍がびっくりしたのが、いわゆる特攻機、爆弾を抱いたまま突っ込んでくる。かなりアメリカの兵士にとっては、衝撃だったから、特攻機が飛び立つ基地を爆撃しよう。4月から5月半ばくらいまでは、特攻機基地の爆撃で、日本本土の都市空襲はしばらくお休みとなりました。

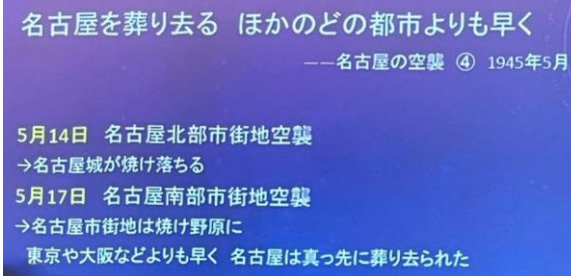
再開されたのが5月14日、つまり、名古屋が最初です。3月の2度の空襲で、名古屋の中心部がほとんど焼けちゃったから、その周辺部を5月に狙おう。その周辺となると南北に広がってますから、まず北半

分を5月14日、南半分を5月17日に爆撃しました。その結果、他のどの都市よりも早く、焼け野原になってしまい、ある意味、日本のどの都市よりも早く葬り去られたのが、名古屋でした。

さて、アメリカ軍の究極の狙いはなんでしょう。

近年、アメリカ軍資料を使って、空襲の研究してる人は、名古屋は珍しいけれど、全国にいて、毎年8月に全国大会みたいに、お互いの研究の交流をやったりしています。

近年の研究成果です。英語で「アブライアンスファイヤー」って言います。アブライアンス、ファイヤー、火災、これが狙いだ、近年の研





アメリカ軍の究極のねらいは…… **APPLIANCE FIRE**

キーワード 「**アプライアンス火災**」

日本を 効率よく 降伏へと 追い込むためには……
ターゲットは **国民の戦争への意欲** ……これを奪うには
→生活の場である 都市を 焼き払うのが いちばん
木造家屋が 密集している 都市中心部に
消防が お手あげになるくらいの 激しい火災 を 起こそう
これが「**アプライアンス火災**」 ※appliance : 消火設備・施設
都市の どこに どれだけの 焼夷弾を 落とせばよいのか
米軍は徹底研究

究で分かってきました。金食い虫の B29 で日本の都市を爆撃すれば、本土にアメリカ軍の大部隊が上陸するよりも、空襲で日本を降伏させたほうが、アメリカ軍の犠牲が少ないわけです。だから、早く日本を降伏へと追い込むためには、どうすればいいか、です。戦争を支えてるのは国民なので、国民が「もう嫌だ」となれば、戦争、終わります。いくら政府だとか軍部が頑張っている、国民がそっぽ向いたらどうなるかとアメリカは考えたんです。「国民の戦争に対する意欲、これをぶっ壊してしまえ！」これがアメリカの狙いなんです。

じゃあどうすれば？国民の日常生活の場である都市、これを焼き払い焼け野原にしてしまえば、日本を早く降伏へと追い込むことができるだろうと。つまり、消防がお手あげになるくらいの激しい火災を、市街地の真ん中に起こして、焼け野原にしてしまい、国民が「もう戦争なんかやってられない、もう降参だ」となることを、アメリカは狙ったということです。英語で「アプライアンス」は消火設備、消火施設を言います。従って、消火設備では到底消せない火災、これが実はアメリカ軍が狙ってた最大の狙い、究極の狙いだ。これを念頭に置いて、これから空襲の話をお聞きになると、今まで謎になっていた部分が解けてきます。そういう意味で、この「アプライアンスファイヤー」は、アメリカ軍の資料を使って空襲研究してる私たちにとって、大きな研究成果だと思っています。

都道府県や市町村で、自治体史、自治体の歴史を編さんしてます。その中で最初にアプライアンス火災という言葉を使ったのは、実は愛知県史です。すごいですね、愛知県史に最先端の研究成果を盛り込んだ、執筆は私だからです。



決め手は人口密度

ゾーンⅠ

1平方マイル当たり91,000人
商業地
・密集した住宅地
完全な破壊のために1平方マイル当たり6トンの焼夷弾を必要とする

ゾーンⅡ

1平方マイル当たり54,000人
工場や倉庫、港湾を含む市街地
完全な破壊のために1平方マイル当たり10トンの焼夷弾を必要とする

さて、アメリカ軍の資料にゾーンマップが出てきます。名古屋の地図です。北のほうに庄内川、矢田川が流れていて、名古屋城が書いてあります。名古屋城の南のほうから、西と南から真っ赤に塗られてる部分があります。アメリカ軍はゾーン 1 とナンバーを付けてます。その周辺のやや薄い赤で塗られてる部分がゾーン 2 です。アメリカ軍はゾーン 1 を最初に焼いて、その後でゾーン 2 を焼こうと。3月の2度の空襲の狙いは、ゾーン 1 を焼くこと、5月の2度の空襲の狙いは、ゾーン 2 を焼くことになるわけです。

このゾーン 1 とゾーン 2 を分けたのは、実は人口密度です。ゾーン 1 は、アメリカ軍のデータによると、1平方マイルあたり、9万1000人の人口、商業地や密集した住宅地、完全にここを破壊するには、1平方マイルあたり6トンの焼夷弾を必要とするみたいなことです。いろんな規定がありますが、ゾーン 2 は人口密度5万4000人でした。

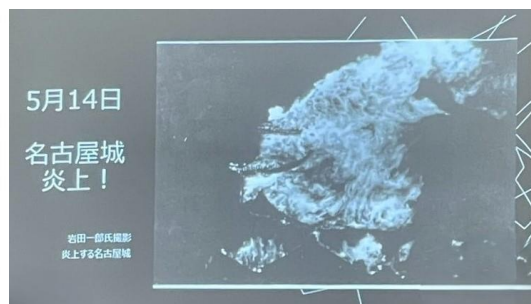
江戸時代の名古屋の城下町の地図は、完全にゾーン 1 と重なります。つまり、西を東海道本線が、東を中央線が、北の果てが、名古屋城外堀、この3本のラインで区切ると、ゾーン 1 になるわけです。鉄道は明治以降に引かれたんですが、かつての城下町、人々がひしめき合って生活している城下町のへりを伝って、鉄道が敷かれました。

実はアメリカ軍は、日本の人口密度など、ちゃんとデータで調べています。昭和15年、1940年の国勢調査のデータは広く公開してますから、当然アメリカは入手できます。その国勢調査をもとに人口密度を計算してるわけです。そして、火災保険です。火災保険の等級で燃えやす

いところが分かります。そこを狙えば、まさにアメリカ軍が望んで、手に負えない火災が広がってことになるわけです。戦前の損害保険はほとんどが外資系なので、アメリカはデータを入手し、チェックするだけで、どこに焼夷弾を落としていいか、分かってしまうんです。

さて、5月14日は「なごや平和の日」だということを、ご存じですか？意外と名古屋市民がご存じないので、残念だなと思ってます。なごや平和の日の仕掛け人の1人として、いろんな場で言っています。5月14日、なごや平和の日。なぜ「なごや平和の日」にしたのか、実は、名古屋市民にとって、やっぱりインパクトが大きかったのは、名古屋城が焼け落ちてしまったことです。昭和20年、1945年5月14日は名古屋城炎上の日になるわけです。

岩田一郎さんが撮られた写真です。ご覧になると、名古屋城が焼けた5月14日って、夜の空襲だったのか？と思いませんか？実は、これ昼間の空襲なんです。激しく炎を上げたことにより、まるで夜のように空が曇ってしまいました。



昼間の空襲で、朝方、午前8時くらいに、爆撃は始まっています。

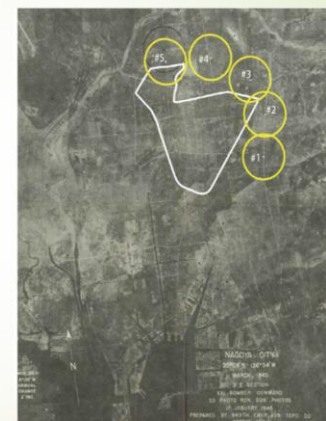
5月14日は、名古屋城が焼けた日。「アメリカ軍は名古屋城を狙ったか？」と名古屋市民の皆さんは思っておられないか？「アメリカ軍は名古屋市民をがっかりさせるために、名古屋城を焼いたんだ」実はそうではありません。アメリカ軍のデータ、ゾーンマップで、名古屋城は赤く塗られていません。空白地帯です。なぜ空白地帯になっているのか。アメリカはすごく合理的な発想をします。密集地帯ならば焼夷弾をバラバラッと落とせば、手に負えない火災が起きますね。ところが、空白地帯の名古屋城は、建物がまばらです。そこに焼夷弾を落としても、手に負えない火災は起きません。それなら、もったいないから焼夷弾を落とさないという発想です。従って、アプライアンス火災が起こせないの、名古屋城は攻撃目標じゃなかったんです。「空白地帯になのに、なぜ名古屋城は焼けちゃったんだろう？」きょうは「アメリカ軍は名古屋城を狙って焼いた」と思われてる方、ぜひ、学んでいただいて、早速周りに広めてください。

5月14日、アメリカ軍は編隊で飛んできます。先に上空に到達した部隊から「#1」を狙ってね。次、来た部隊「#2」狙ってね。これ爆

撃中心点で、5月14日は5つの爆撃中心点が設定されていました。白

名古屋城を囲む5つの爆撃中心点

1945年5月14日の空襲の
爆撃中心点と
確率誤差円 (4000フィート)
B29部隊は、先着順に
#1から#2、#3……と
順に爆撃することになっていた。



く縁取られてるのが、燃やしてしまったゾーン1、そこは飛び越します。右下のところから、1、2、3、4、5と、ナンバーが振ってあります。つまり、最初に到達した部隊は、この1を狙いなさい。だからゾーン1を飛び越して1の辺り。次に到達した部隊は、2で、3、4、5というふうに、見てみるとちょうど名古屋城を囲むような形で、爆撃中心点が、打たれています。このように落とすことになってたはずでした。昼間の空襲なので、アメリカ軍は写真を派手にたくさん撮りましたから、5月14日名古屋空襲の写真は、アメリカ軍の資料にたくさん残っています。

名古屋城の天守閣は、この写真で完全に煙に覆い隠されているわけで、上空から確認できません。つまり、煙に覆われてしまって、分かんないわけです。「あれ？話が違うじゃないか？」つまり、最初に到着した部隊は、ゾーン1飛び越して、東、南、東南東くらいの方角から落としてくんじゃなかったのか？ということですが。ここでこの謎を、解明します。

5月14日の朝、何が起きていたのか。アメリカ軍の資料によると、1発目を落としたのは午前8時5分です。8時20分頃には、もう天守閣に焼夷弾が落下して火災が発生したそうです。名古屋城、天守閣は国宝です。国宝が焼けたので、愛知県知事は文部省に報告書を出し、その中に、8時20分頃、天守閣に火災が発生したと書いてあります。だから空襲が始まって、ものの15分で名古屋城、天守閣に火が及んだってことです。早速、消し止めないといけないけど、消火活動が始まったの

が、なんと9時25分です。つまり、1時間以上の間、燃えるがままに任せていたということになります。この消火活動が開始された時刻は、愛知・名古屋、戦争に関する資料館に所蔵されている資料の中に出てきています。空襲のかなり早い段階で、天守閣に火災が発生したということが分かります。

5月14日の朝 何が起きていたか？

午前8時05分 B29部隊投弾開始—アメリカ軍資料による
8時20分頃 天守に焼夷弾落下 火災発生
—「国宝建造物滅失届」（県知事→文部大臣）
9時25分 消火活動開始
—「消火活動実施報告」（愛知・名古屋戦争に関する資料館所蔵）

内に入ったら、もう9時25分だった。もう既に手遅れですね。それでも、まだ疑問が残っています。つまり、早い部隊はゾーン1を飛び越して、名古屋市内の中心から、名古屋城から遠いところから爆弾を順繰りに落とす予定だったはずなのに、なぜ手前で落としたのか。

これもいろいろな推理と、アメリカ軍の資料やデータに基づくと分かります。これまで名古屋は夜間空襲で、3月12・19日、アメリカ軍のB29は1機ずつしか落とされていません。でも、5月14日は朝、なんと11機で、1桁違います。昼間だからです。夜は、迎え撃ちができません。5月14日、昼間に飛んでくるのを、満を持して待ってたんです。今まで悔しい思いをしたので、頑張って飛び上がり、対空砲火、高射砲も、盛んに大砲をぶっ放し、11機、落としたんです。

アメリカ軍のB29は、今まで名古屋の防空態勢が弱いから、迎え撃ちにこないじゃないか、なめてかかっていたかもしれません。でも、今度ばかりは、ワァーッと飛んできたんです。そうすると、怖いんです。B29の先端部分はガラス張りになっていて、爆撃手（ボンバディア）が陣取ってます。爆撃手はノルデン照準器という目標設定するためのかなり大きな機械を、爆撃目標点にセットする、つまりスイッチを押すわけです。そうすると、操縦桿が動かなくなる、要するに、日本の飛行機が迎え撃ちに来て、スピードを上げたり、高度を上げ下げしたり、方向を変えろとかできず、ハンドルが固まってしまうんです。

機械的に目標を設定したので、方向を変えたりスピード上げたりすると、目標どおりに爆弾が落ちていかないわけだから、ロックされてしまうんです。つまりB29にとって爆撃手が目標設定のスイッチを押して

なぜ、消火活動が遅れたのか。戦争資料館の資料に図解されてます。本丸に通じる門が、早い段階で焼け落ちて道を塞いでしまい、消防車、消防部隊が、中に入れなかったんです。燃えてる木材とかを取っ払って名古屋城内に入ったら、もう9時25分だった。もう既に手遅れですね。それでも、まだ疑問が残っています。つまり、早い部隊はゾーン1を飛び越して、名古屋市内の中心から、名古屋城から遠いところから爆弾を順繰りに落とす予定だったはずなのに、なぜ手前で落としたのか。

から、実際に爆弾を落とし終わるまで、これがパイロットや乗組員にとって、一番、怖い時間帯なんです。この危険から脱出するためには、爆弾を落とすことです。マリアナ基地からずっと北上してきて、大抵、名古屋の町を爆撃するときは、琵琶湖を左手に見ながら、名古屋の上空に侵入してきます。名古屋の上空に到達して一番最初は名古屋城の西側、3月の2度の空襲でも、この辺りは実はあんまり焼けてない、飛び越したんです。3月12日も、今の西区の辺りが爆撃中心点になってましたが、焼けませんでした。やり直しの3月19日も、西区の辺りを狙いましたが、焼けませんでした。

5月14日は名古屋城を狙ったわけじゃないけれども、こんな理屈で、怖くなってパラパラっと、先に爆弾、落として、焼けちゃったんです。上空と地上の風向きはちょっと違いますが、その日の風向き

で西区の辺りに燃え広がった煙が、名古屋城の方にたなびいていたから、どこが名古屋城が分からなかったんです。空白区域が分からず、焼夷弾を落とす必要がない名古屋城に落として、結果、焼けてしまったということです。

さて、ここで「なごや平和の日」の宣伝をしたいと思います。5月14日、今年は水曜日、平日でした。私は授業を午前中に全部すませ、中区役所ホールの記念式典に出掛けました。名古屋市主催の平和懸念式典ですが、ここにたどり着くまでの歩みを、振り返っておきたいと思います。名古屋空襲慰霊の日、制定協議会というのがあり、ピースあいちの方、戦争障害者の方、被爆者団体理事長の金本さんも、実はメンバーで、被爆者です。さまざまな立場の人たちから意見を聞いて、名古屋城が焼けた日が一番いいんじゃないかと、市長に提案しました。

大きなテーブル挟んで対面に当時の河村市長さんがいらして、最初つまらなそうな顔するんです。こっち向かせないといけなくて「全国で戦争障害、空襲で傷ついた人に見舞金、出してるのは、名古屋市ですよ。すごいですね、名古屋市は」と言うと、ピッとこちら向いたので、ワァーッと話を続けていき、決定されました。



よその マネや 後追いではなく……

9月21日 市長に伝えた 4つのポイント

- 1 戦災被害者見舞金事業
→大都市としては名古屋だけ
- 2 高校生が政治を動かした
→名古屋だけ
→後追いではなく 名古屋が全国のモデルに
- 3 出発点は高校生（祖父母も戦後世代）
→儀式に終わらず「学び」を入れて
- 4 これはゴールではなく**スタート**
→空襲だけではないから「平和の日」



民間戦災記念碑 2014年11月 千種公園

→空襲だけではないから「平和の日」

私たちは、制定協議会で話し合っ「名古屋空襲の日」ではなく「平和の日」という名前にしました。空襲は、戦争のまさに末期に起きてる一つの大きな事件ですが、ここだけで留まてはいけない、というのが、私たちの発想です。入り口は空襲であっても、きちんとその奥にある戦争そのものを、きちんと捉える必要がある。だから、空襲の日ではなく「平和の日」です。幼い子でも読めるように、名古屋はひらがなにしようと「なごや平和の日」にしたわけです。

9月21日、市長に伝えた四つのポイントがあります。

1点目。戦災障害者、空襲で傷ついた方への見舞金事業は、他都市にもありますが、名古屋とは金額が全然違います。大都市としては、名古屋だけです。戦災障害者見舞金の審査会があり、私もメンバーです。3歳とかで空襲に遭われた方は、記憶が随分、曖昧で、その日付では戦争が終わってるみたいな日付を申請書に書く人がいました。ところが、その申請書をよく読むと、実際に空襲体験した人じゃないと知らないようなことが必ずあります。だから、それを元にして「この人は間違いなく空襲体験されたんですよ」と審査会を通しました。ただの1人も、申請された方で落としていません。全員、見舞金の対象になりました。

2点目。高校生が政治を動かしたのは名古屋です。だから、後追いではなく、よその自治体がやってるから名古屋も、ではなく、名古屋は先陣を切ろうじゃないですか、と。「日本一ですよ」って言うと、あの市長さんが「おお！」ってなったわけです。

3点目。出発点は高校生です。祖父母も戦後世代だったりするから、単にセレモニーで終わらずに、学びの要素を入れましょうよ、と。

4点目、これはゴールではなく、スタートです。市議会で、条例が可決されました。「なごや平和の日の目的は、空襲犠牲者を悼み、語り継ぎ、さらに平和な社会の発展に寄与する」ことが、ちゃんと条例に書かれています。「第3条：なごや平和の日を中心に、平和意識の醸成のための取り組みを行う」醸成という言葉はすごいですね。徐々に創り出す、醸すという字ですから。時間をかけてお酒がおいしくなっていくように、焦っちゃ駄目です。最初5月14日、スタート時点の記念式典は、500人ぐらいいる名古屋市公会堂に80人ぐらいいましたが、この前は、中区役所ホールに200人ぐらいいました。じわじわと広がってる実感を持っています。焦っちゃ駄目よってことです。

「なごや平和の日」には二つの源流があると思います。戦争体験者、森下さんもそうですね。残念ながら亡くなりましたが、101歳で、杉山千佐子さんという「空襲で傷ついた人にも補償を」と、ずっと訴えてこられた方、戦争で亡くなられた方、そういう戦争の体験者、障害者、犠牲者と、若い世代とのコラボレーション、共同作業だったんです。

名古屋名東区の東邦高校、なんとその入り口すぐ右手に、空襲で傷ついた煙突の一部をもらってきたようですが、平和の碑というのを設置しているんです。その誓いとは「戦争の悲劇を再び繰り返さない」学校が作ったものですよ。「戦争の悲劇、再び繰り返さない。平和の貴重さを自らのものとして守り育てる、将来に伝える」というものです。

戦争記念碑があると、裏面には、大抵「先の大戦で犠牲になられた方」みたいなことが、書かれていて、戦争を「先の大戦」に限定しています。ところが、東邦高校のその碑には、どの戦争ということを書いていないんです。「戦争の犠牲となられた、全ての方々」すごいなと思いました。こんな石碑は、見たことありません。なんて心の広い、ある意味、教育の場、東邦高校という教育の場にふさわしい。時代も国境も越えた、全ての戦争犠牲者に対する若い世代の平和の誓いだということになるわけです。

その誓いを受け継ぐ高校生たちについてです。記念式典、5月14日、最初に東邦高校生が平和の宣言をおこないました。ここの平和宣言が、すごいです。その高校生たちが読み上げた平和のメッセージです。

「使命」という重い言葉を、あえて使っています。

海の向こうの戦争、ガザもウクライナもそうです。「自分事として捉える」私たち教員は、よく生徒たちに口酸っぱくして言ってる言葉です。「自分事として、捉えろよ」日頃、言っていると、彼らはとうとう、自分たちの言葉としてマスターするんです。こういうところでちゃんと教育の成果、発揮してくれたのは、うれしいな、と思います。「自分事とし

て捉える」と言ってます。

私たちは、声を上げ続けることで、戦争を繰り返さないための力を身に付けていくんだってことを、宣言してます。

彼らは、沈黙しないって言ってます。すごいですよね。このようにして、平和のバトンが、若い世代へと渡されていく、受け継がれていくことになります。

以上で終わります。

5月14日「なごや平和の日」 高校生の平和メッセージ I

空襲体験者が高齢化し、その貴重な体験が失われつつあるいま、私たちには

彼らの声を伝える使命があります。

戦争の記憶を風化させないために、私たち**若者が力を合わせて**行動し、平和の礎を築いていきましょう。

国や宗教、性別など、異なる価値観を持つ人々が共存することは、世界の平和と共生においてきわめて重要です。私たちは、他者を傷つけるのではなく、互いを尊重し合い、共に暮らすことの大切さを理解し、実践していきます。そのために

世界中に友情を育み、友好な関係を築く努力を惜しみません。

5月14日「なごや平和の日」 高校生の平和メッセージ II

今も海の向こうでは、実際に戦争が起こっています。私たちもしかしらいつか戦争に直面することがあるかもしれません。そのような未来を想像したとき、沈黙することはできません。

海の向こうの戦争を「自分ごと」としてとらえ、

平和の声を上げ続けたいと考えています。

私たちは声を上げ続けることで、**戦争を繰り返さないための力**をつけていきます。そのために、情熱と決意を持って行動し、平和の実現に向けて努力を続けます。

未来の世代に平和な地球を引き継ぐために、

私たちの声を沈黙させてはならない

と強く思います。

《会場からの質問》

森下さん、西形先生、ありがとうございました。一つ、疑問ですが、京都とかはあまり大きな空襲がなくて、焼夷弾で燃やされなかったと、頭にすり込まれています。貴重な文化財があったからアメリカ軍はそれを避けたという話を聞いています。でもその一方で、アメリカは実は原爆を落とす効果的な町を策定し、目標として京都や広島、盆地で被害が非常に分かりやすいところをターゲットにしていたと。結果的には広島だったのですが。その辺り、今の研究からは、どういうふうにかえたらいいんでしょうか。教えていただければ幸いです。

ありがとうございます。おっしゃるとおりで、京都は最後の最後まで原爆投下の候補地として残っていました。アメリカの美術評論家ラングドン・ウォーナーは「ウォーナー・リスト」というリストを作っています。そこには名古屋城、姫路城、沖縄の首里城に至るまで、重要文化財や国宝級の建物がリストアップされています。リストの目的、重要文化財、つまり日本の文化を理解してくれてるので、ウォーナー、さすが美術評論家、日本の美術のことを評価してくれているんだな、と日本人の多くはちょっと勘違いしてるところがあります。

例えば、多治見の永保寺に、ウォーナーの顕彰碑があったり、先生のおかげで永保寺が焼けなかった、みたいなこと書いてありますが、全然違います。鎌倉にも、奈良にも、そういう石碑がありますが、実は、ウォーナーは、亡くなるまで、そういうことをひとことも言わなかったんです。アメリカがなぜ文化財のリストを作ったのか。日本が敗北すると、戦後に賠償金を取り立てることができないので、だからなんです。賠償金のかたとして、リストを作ったんじゃないかと、現在、私たちは考えています。いずれにしても、それを裏付けるための証拠、ウォーナーは何も言わずに亡くなっているの、分からないところがあります。

沖縄の首里城もリストに載っていますが、もう徹底して破壊されてます。名古屋城も焼けてます。日本の全国のお城もかなりウォーナー・リストに入ってますが、半分くらい焼けてます。別に焼かずに取っとう、文化財が貴重だから守ろう、ではなかったのです。

完